１１月１１日（水）島原新聞

乳牛の衣装を着た島原農高生の指導でバターをつくる中学部生ら。島原特別支援学校で

乳搾りやバターづくり

島原農高と島原特支学校

交流学習で家畜を学ぶ

2.11.11
島原新聞

島原農高（前田達彦校長）の農業科学科3年生8人と島原特別支援学校（中田克之校長）の中学部3年生9人による交流学習が6日、行われ、乳搾り疑似体験やバターづくりを通して家畜について学んだ。

島原農高で飼育されている乳牛や肉牛について学んでもらい、食べ物への感謝をもってもらおう、と生徒自らがプログラムを企画。島原特支中学部では高校生と交流することで、人と関わる基礎的な能力や態度を身につけよう、と取り組んだ。例年は島原農高で行われていたが、新型コロナウイルスの影響で実施方法を変更し、テレビ会議システムで両校をつなぐリモート（遠隔）授業も取り入れた。

島原農高生2人と教員1人が島原特支学校を訪れ、画面越しに教員や生徒から指示やアドバイスを受けながら学習をスタート。ドラム缶などで手づくりした搾乳擬似体験装置を使って乳搾りに挑戦したり、生クリームを入れた容器を振ってバターをつくったり。中学部生らはクラッカーにつけて味わい、「おいしい」などと歓声をあげていた。

白と黒のホルスタインカラーの衣装を着てサポートした島原農高農業科学科3年の永石幸規君（18）は「中学部生に積極的に話しかけ、バターの味に工夫を凝らすなど心がけた。楽しんでもらえたようでよかった」と話していた。